

【研究主題】社会形成能力を育む教育活動の推進



I 研究発表と協議

【協議題①】

社会の発展に貢献しようとする資質・能力・態度を育む教育活動の推進

<発表題>

主体的な社会参加を促すキャリア教育の推進

宮崎県延岡市立緑ヶ丘小学校 校長
長友 紀

<発表概要>

延岡市内の各小学校における「キャリアパスポート」の活用状況、並びに、関係機関との連携の状況を把握し、校長としての学校組織マネジメントはどうあればよいかを明確にすることが重要である。そして、その結果を踏まえ、社会形成能力を育むための「キャリアパスポート」の有効的な活用、及び、関係機関との連携した児童の社会参加への促しの二つの手立てについて、検証することにした。

「キャリアパスポート」活用及び関係機関との連携、それぞれの状況に係る市内小学校へのアンケートを実施する。その分析をもとに、校長としてのマネジメント力を発揮する上で、児童の社会形成能力を育成するための必要な視点は何かを明らかにすることとした。

(1) 「キャリアパスポート」活用状況及び関係機関との連携状況の把握

- ① キャリア教育で育成すべき能力や態度について
- ② キャリア教育に関する研修について
- ③ 関係機関と連携した学習について
- ④ 学校経営との関連について

(2) 実践事例及び各学校の課題からみられる校長

の役割と考察

- ① 校内研修の実施
- ② 実態把握
- ③ 「キャリアパスポート」の活用事例
- ④ 関係機関との連携の実践事例
- ⑤ 校長の役割と考察

<協議の概要>

(1) キャリア教育は全ての教育活動の基盤であることが共有できた。また、沖縄県からはキャリア教育が育成する能力の四つの視点を「かかわり」「ふりかえり」「やりぬく」「みとおし」の四つのキーワードで整理している旨の紹介があった。キャリアパスポートの活用事例としては、三者面談の際に、キャリアパスポートに沿って児童本人に語らせる実践が紹介された。

(2) 各県の取組を共有することで、どの県においても「ふるさと学習」等、学校の実態に合わせた取組をキャリア教育に位置付けていることが分かった。また、地域の人材活用に加え、学校から地域へ出向き、様々な生き方や考え方に触れる活動が大切であるとの意見が出された。

(3) 延岡キャリア教育センターの機能について、質問や意見が多く出された。電話一本で講師紹介や研修を担ってもらえる行政支援に対しては、好意的な意見が多かった。

(4) 校長が担う具体的な役割として、学校評価に位置付けること、道徳の内容項目をキャリア教育と関連付けて見直すことが出された。地域連携や働き方改革とのバランスを取りながら、学校や児童に合った立案と適切な判断による運営が求められる。

校長 長友 紀



【協議題②】

自立・協働・創造の心を育むキャリア教育の推進

<発表題>

キャリア教育の視点を生かした学校経営について
～自信を持って表現する子どもをめざして～

大分県由布市立西庄内小学校 校長
小出 和洋

<発表概要>

本校の児童は、学校の伝統を引き継ぐことをよしとして変化を求めようとはしない。だから、自ら課題を見だし、自ら一歩踏み出そうという経験が少ない。また、失敗を恐れ教職員もつい支援してしまったり、失敗させないように先回りして手を出したりしてしまうなどの要因がある。

子どもたちを取り巻く社会の状況は、とどまることなく変化している。そのような社会の中で、子どもたちが夢や目標をもって積極的に自らの未来を切り開いて生きていくためには、一人一人が自分の能力や可能性を信じ、学習したことを課題解決に生かす力や、多様な人々と連携しながら様々な社会の変化を乗り越えていく力と態度を育てることが不可欠である。このような力や態度を育成するためにキャリア教育の視点から学校経営を見直す必要がある。

- (1) キャリア教育の視点による学校経営の見直し
 - ① 学校教育目標の見直し
 - ② キャリア教育の視点を生かす学校評価の4点セット
- (2) 校長の果たす役割と指導性
 - ① キャリア教育共通理解
 - ② モデルの提示
 - ③ キャリア・ノートの記入について
 - ④ 事例研修

<協議の概要>

- (1) 児童評価、保護者評価、教職員評価等を基に表現力に課題があるという実態把握を行った上で、本来なら国語科で取り組むところをキャリア教育の視点での取組を推進されている。推進のためには校長のリーダーシップや企画力が必要である。
- (2) 学校経営グランドデザインや学校評価がとても分かりやすく表記してあり、教職員へのキャリア教育の意識付けとなっている。地域や保護者にも説明しやすい内容となっており、それぞれの立場でどのように参画しようかと考えやすい内容と

なっている。特に学校評価については、いかに有効活用していくか、充実したものにするかという視点が大切だという意見が出された。

- (3) 校長がリーダーシップを取り、教職員間で目指す子どもの姿を明確化することが大切である。そのためには、誰にどのような指導・助言を行うのか、共通理解のための職員研修を担当者と連携してどのように仕組むのが重要となってくる。
- (4) キャリア教育の推進には、地域との連携が必要不可欠である。まずは、学校運営協議会での説明が重要になるが、分かりやすい学校評価表が説明の際に有効となる。その後、地域の方へのインタビューや地域の方を招いての発表等を行うが、内容や発表態度について地域の方に評価をしてもらい、取組の改善を行うことが必要である。取組を進めることで子どもの成長が見られると、教職員の意欲も向上する。

II まとめ

各県での実践を情報共有することで、どのような具体的な教育活動がキャリア教育の教育課程に位置付けられているのかが明らかになった。また、キャリア教育を教職員等が意識して推進していくためには、校長がリーダーシップを発揮し、実態把握をした上で、キャリア教育の視点による学校教育目標の見直しや学校評価への位置付けを明確に行うことが有効であることが明らかになった。延岡キャリア教育センターの機能の例からは、地域や行政等、関係機関との有効な連携の在り方も見えてきた。協議で得られたことを各県、各学校の実践に生かし、子どもたちの資質能力を伸ばすとともに、保護者・地域や関係機関との連携を図り、校長のリーダーシップを発揮したキャリア教育の推進に努めていきたい。

